

【下越Bブロック大会分科会の成果と課題】

第1分科会

[成果]

- ◇新潟県の教育が目指す「たくましいひとづくり」を推進するためには、地域と連携し、人材や資源を有効活用する教育が必須であり、教頭会が組織的に保護者・地域と連携・融合した教育活動の推進を支援することは有効な取組の1つであると共通理解した。

[課題]

- ◆各学校において、職員が地域連携の必要性を自覚し共通理解する研修や取組を進め、保護者・地域と連携・融合した教育活動をさらに推進していく。

第2分科会

[成果]

- ◇子どもの発達をつなぐ校種間連携及び関係機関との連携を郡市教頭会が核になって積極的に行っていくことが重要である。また、こうした連携を図ることが特別な支援を要する生徒を新たに生まない予防策の1つになることが確認できた。

[課題]

- ◆教頭が調整役となって外部機関との連携を図った後、特に問題が好転しなかった際のその後の対応の在り方を明確にし、全職員で情報共有していくことが必要である。

第3分科会

[成果]

- ◇教頭会といった組織を活用して情報共有し、自校化して実践し成果を上げるという提言が有意義であった。危機管理について、各校の特色ある取組が紹介された。教頭が要になり、学校の危機管理の徹底と教職員の意識の啓発を推進していく重要性が確認された。

[課題]

- ◆全校体制で、事前の危機管理（未然防止と発生への備え）を徹底し、事後の危機管理（即時対応と拡大防止、回復）について、形式的に陥らないように訓練を通して手順、マニュアル、計画などを見直し、精度を上げていかなければならない。

【下越Bブロック大会の成果と課題】

[成果]

- ◇三分科会とも、それぞれの教頭会の特色を前面に押し出した提案発表がなされ、実りある協議も含めて、良い研修の機会となった。
- ◇阿賀町、五泉市、阿賀野市の三つの教頭会が集まって実行委員会を作り、各専門部も三つの教頭会で割り振り、綿密な分担と連絡調整を行うことで、順調に準備が進められた。
- ◇阿賀町文化福祉会館と津川小学校の2会場としたが、会場が近接しているために移動の時間のロスが少なく済んだ。
- ◇当日の準備・運営がうまくいき、遠方から来た方々にも分かりやすく、親切な運営ができたとお褒めの言葉を多く頂けた。
- ◇細かい準備スケジュールや当日のタイムスケジュールを作り、準備・運営に当たったので、漏れ落ちなく進められた。
- ◇実行委員会を、実際に大会会場で開催することによって、大会運営のシミュレーションを行うことができ、大変良かった。

[課題]

- ◆阿賀町初開催であったため、会場選びや運営に多少の困難を生じた。また、阿賀町開催ということで、村上市等遠方から参加される会員には、旅費や時間的な面で不便を感じさせたのではないかと考える。